

ふるさと福栄に学び、福栄を生かす学習 ～地域の教育資源「ひと・もの・こと」をフル活用～

萩市立福栄小中学校

はじめに

令和3年度、小中一貫教育校として6年目を迎えた。開校当初から教職員一同、「九年間の義務教育を小学校と中学校が連携し、子どもたちの学びと育ちを見守ろう」を合言葉に学校教育に取り組んでいる。さらに、「地域とともにある学校」として学校と地域が連携しながら、子どもたちのための学校支援、地域のための地域貢献等、様々な取組が進められている。

特色ある取組として「ふくえ学習」「地域理解学習」があげられる。その目的は「ふるさと福栄の「ひと・もの・こと」を活用し、9年間を見通して、ふるさと福栄に学び、福栄を生かすための学習である。また、様々な活動で地域の方を講師として依頼し、地域の子どものために快くお力添えをいただいている。現在、福栄地域も人口減少が進んでいる。地域の方々にとって、学校が少しでも地域の拠点（プラットフォーム）的な役割を果たせればと思う。そのためには、学校が身近な存在になるよういろいろな仕掛け（地域を巻き込んだ活動）を計画し、取り組んでいきたい。

1 福栄地域の自然に学ぶ

(1) うなぎの放流

自然に囲まれた福栄地域には、鮎やうなぎの放流ができる豊かな自然（川）がある。この恵まれた環境でしか体験できない川辺の学習を地域ボランティアの協力により実施している。この体験をとおして、水中生物の生態や地形、水質や環境問題について学ぶ機会となり、さらに、子どもたちは自分の生まれ育った地域への理解を深めるとともに、ふるさとへの郷土愛を育てている。



2 福栄地域の第一次産業に学ぶ

(1) もち米づくり・・・もみまきから稲刈り、販売まで一連の流れを体験する。

①もみまき



②田植え



③稲刈り



④はぜかけ・脱穀



⑤もち米販売



⑥しめ縄飾りづくり



(2) 森林体験学習・・・森林についての基礎知識から枝打ち、木製品の製作を体験する。



3 福栄地域の伝統に学ぶ

(1) 「大板山たたら太鼓」の継承



福栄地域の紫福地区には世界遺産大板山たたら製鉄遺跡がある。その製鉄の力強さをイメージした創作和太鼓に大板山たたら太鼓同好会が取り組み、各種イベントで力強い演奏を披露してきた。本校の児童生徒にとっては、小さいころから地域のお祭りなどで慣れ親しんできたもっともなじみの

ある郷土芸能である。その伝統芸能の一つである「大板山たたら太鼓」は、次世代に継承し、太鼓を通して郷土愛 や自主性・自律性を育むことをねらいとして、現在、小中学生を対象とする公民館活動として「たたら太鼓ジュニア」を開設している。小学部4年生から中学部3年生までの希望者が、毎週水曜日の放課後に行われる練習に参加している。地域の指導者の熱心な指導のもと、技術を磨いている。その練習の成果を発表する場として、福栄ふるさとまつりや各地域行事のオープニングで披露するなど、地域へ子どもたちの元気と勇気を発信している。

(2) 弓道教室



本校には立派な弓道場がある。以前、中学校には部活動として弓道部があったが、生徒数減少により廃部となった。使用頻度も年々も減ってきた。立派な施設であり、学

校と地域の弓道経験者の間で、施設の有効活用を考える中で、「弓道をやりたい」と希望する児童へ放課後、弓道教室の開設することとなった。多くの児童が弓道教室を希望し、指導者もいきがいをもって指導にあたってくさっている。弓道を通して、礼節を重んじ心身を鍛錬する取組は「地域とともにある学校づくり」の大きな役割を果たしている。

4 福栄地域の自然を体感し、歴史、産業(事業所)を学ぶ

「福栄地域探訪遠足」・・・全校児童生徒が地域内を歩いて学ぶ

小中一貫教育校として特色ある取組の一つに「福栄地域探訪遠足」がある。

目的として、

- ①福栄地域を徒歩で探訪することを通して、たくましい心と体を養い、地域の自然や地理、歴史、産業への理解を深め、ふるさとを愛する心を育てる。
- ②児童生徒と教職員、保護者が共に行動することをとおして、小中一貫教育校としての一体感と連帯感を養う。

この取組は、今年度で5回目を迎える。小学部1年から中学部3年までが10km程度の道のりを歩き、鍛練的要素も取り入れている。探訪ルートや地域内の社会見学する場所については、地域学校協働活動推進員と学校、PTAが連携を図りながら進められている。保護者にも参加を呼びかけ、子どもたちと同じ空間を共有することにより、わが子を見守りつつ（おもに小学部低学年）、福栄地域の自然を体いっぱい楽しむ時間となっている。

（1）ジェムカ株式会社(総合リサイクル型廃棄物処理場)



全校児童生徒と教職員、参加した保護者、地域ボランティアスタッフが歩いて向かった先は、福栄地域にある大きなリサイクル型廃棄物処理場である。そこで働く職員の方に施設について概要説明していただいた。地域にある産業を知ること、分別によるリサイクル、環境問題への取組等、いろいろ学ぶことができた。

（2）山口・萩メガソーラー発電所



（3）ハーベストファーム株式会社 オリーブ畑見学



おわりに

地域が学校と連携・協働して子どもたちの学びや育ちを見守ることは、地域の教育力を高め、持続可能な地域づくりにもつながるものと考えます。

そのために学校は「地域に開かれた教育課程」を常に念頭に入れておかなければならない。子どもたちの学びは学校だけでなく、地域住民や企業など、様々な専門知識・能力をもった地域人材が関わることで、多様化する社会の中を生きるための必要な知識・能力を育成につながる。これからのような資質を育むことが必要かという共通目標を掲げ、地域社会と学校が協働して子どもたちの学びに取り組んでいかなければならない。

そこで、大きなカギとなるのは、地域学校協働活動推進員の存在である。学校の経営方針を理解した上で、フットワーク軽くコーディネート機能を発揮していただくことが重要である。推進員の取組が地域の方が学校にかかわるきっかけとなり、地域の方の学びの場が提供されることにつながる。すなわち地域の教育力向上の基盤づくりとなる。学校と地域は表裏一体の関係である。学校は「地域とともにある学校づくり」に取り組み、子どもたちには地域の一員としての自覚をもたせ、地域活性化に向けて、元気と勇気を与えられる存在になってほしいと願う。